【令和2年度実績】

1. 展示や各種企画を通じた大学の研究成果・学術資源の公開による社会貢献事業

No.35 ②-1 社会連携活動の全学的推進
No.36 ②-2 知縁コミュニティの創出・拡充への寄与
実績報告
1）新型コロナ感染症への対応のため、展示公開施設の運営に、特段の取り組みが必要となった。センター各施設は、前年度2月末より、展示公開施設を閉鎖した。2020 年6月以降、研究活動、教育活動における感染症対策が定められたことを踏まえ、多数の学生・大学院生などが利用する大学の展示公開施設として、ふさわしい感染症対策を、本部の総務企画部総務課と連携して検討を進めた。「東北大学の行動指針（BCP）」および「催事等開催時の新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」（東北大学新型コロナウイルス感染症対策本部、2020 年6月 16 日）を基本とし、展示公開施設として「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（公益財団法人日本博物館協会、2020 年5月 14 日）を踏まえた対策となるよう、感染症対策本部の専門家の意見を得ながら検討し、10 月 16 日に「展示公開施設開館時の新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」をセンターとして策定した。ガイドライン策定を踏まえ、総合学術博物館（10 月 20 日～1月 8 日開館）と植物園（11 月 4 日～11 月 27 日限定開園）で、感染症対策を徹底して開館することができた。史料館は、2階展示室が改修工事中のため、1階資料閲覧室のみ、事前申込の研究者に限定して公開した。当ガイドラインに基づき、2021 年 1 月 8 日の BCP 引き上げに伴い、展示公開施設は閉館となっている。展示公開施設の感染症対策の実施にあたっては、文化庁による「令和2年度文化芸術振興費補助金（文化施設の感染症防止対策事業）」にセンターとして応募し、対策費用約 98 万円の半額にあたる、49 万円の補助を受けることができた。

2）本部総務課・埋蔵文化財調査室と連携・協力し、センターとして本部棟7（旧金研 10 号館）1階の情報発信・公開スペースの展示計画を具体化した（展示室オープンは来年度）。本部棟7の整備にあたっては、史料館は民間美術館である福島美術館からの什器寄贈を受け、学民連携した展示公開のためのアウトリーチ体制を整備した。センター3施設を紹介する企画展示（会場：附属図書館エントランス）はコロナ感染症の影響で中止となったため、WEB での発信に重点を置いた取り組みを進めるため、センターの WEB ページの改修を行った。さらに史料館では、本部事務機構、附属図書館とも協力し西澤記念資料室の整備を進め、合わせて昨年度寄贈を受けた西澤潤一関係資料の本格的な目録作成作業を開始した。西澤潤一関係資料は、晩年の記録だけでなく、学生時代からの膨大な資料が遺されており、研究資料のみならず、卓越した研究の知的基盤そのものを解明すべく、バイオグラフィーから位置づけるアーカイブ構築をおこなった。

3）博物館等の連携組織の仙台宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）に学術資源研究公開センター全体として引き続き参画した。SMMAの各種事業もコロナ感染症の影響でほとんどが中止となったが、史料館が中心となって、SMMA クロスイベントの助成を受け、コロナ禍における公共空間において、ソーシャルディスタンスを保つための利用禁止等、拒絶に代わるサインツールを作成・設置する試みである「東北大学 MLA キテン・プロジェクト」を総合学術博物館、植物園、附属図書館と連携して実施した。

4）総合学術博物館では、クロスアポイントによる講師を海洋開発研究機構（JAMSTEC）から招聘し、その連携のもと企画展示を準備してきたが、感染症対策のため WEB 上でのオンライン特別企画「深海底の科学とプレートテクトニクスの発展」として開催した。

5）史料館では、旧制二高同窓組織と連携した取り組みを行い、明善寮・旧制二高関係者からなる新規同窓組織、蜂萩会の結成と共に萩友会加盟について協力をおこなった。また、コロナ禍においてキャンパスに来られない学生や同窓生のために、東北大学公式サイト上に、東北大学キャンパスガイドを開設すると共に、コロナ下のキャンパス定点観測撮影を病院広報室、災害研とともに開始した。

6）植物園では、宮城県庁18 階にある県政広報展示室において、企画展「天然記念物『青葉山』の自然」を令和 3 年 1 月 18 日～2 月 19 日の期間に開催した（開催状況写真添付）。

企画展「天然記念物『青葉山』の自然」開催状況.jpg

---

2. 独自性を活かした復興支援・震災記録事業の推進・展開

No.37 ①-1 東北大学復興アクションの着実な遂行
No.38 ①-2 復興に長期を要する被災地域への貢献
実績報告
　センター各施設の特徴を活かし、復興支援・震災記録事業で独自の取組を継続している。

1）2018 年度から4ヶ年の予定で、人間文化研究機構、東北大学、神戸大学が参加して「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」が実施されている。センターでは当事業の東北大学拠点に参加し、総合学術博物館が中心となり「歴史文化資料保全コーディネーター講座」を担当し、総合的知識を有した人材育成のための教育プログラムの開発を目指している。コロナ感染症対策のため、3月3日～5日にオンライン形式で講座を開催し、本学学生・大学院生をはじめ、全国の博物館関係者など、60 名が受講した。

2）震災遺構等の3次元デジタルアーカイブ事業を継続し、富岡町からは受託研究を受け入れ、同町のアーカイブ施設整備に伴う、各種資料の3次元計測を実施した。大熊町の熊川集会所の3次元計測を、災害科学国際研究所と協力して実施した。せんだい 3･11 メモリアル交流館の企画展「うみべの小学校」（会期：2020 年 9 月 26 日～2021 年 1 月 31 日）に、津波で被災した旧仙台市立中野小学校の3次元データから作成した動画を、展示用映像コンテンツとして提供した。

3）史料館では、2022 年度に開館する仙台市公文書館の運営検討会議に史料館教員が座長として関わることを通じて、官学連携した東日本大震災と公文書管理に関する記録の収集選別基準の策定を進めた。

歴史文化資料保全講座フライヤー.pdf

---

3. 大学の有する自然環境・歴史的資源の保全と活用を通じた社会連携の強化

No.71 ①-1 知的交流と国際交流を促すキャンパス整備
No.81 ①-1 地域住民等との協働の緊密化
No.82 ①-2 校友間の協働の緊密化
実績報告
1）総合学術博物館と史料館は、本部総務課・資産管理課・施設部等と協力し、片平キャンパスの歴史的建造物の有形文化財登録のための準備を進め、10 件の登録有形文化財候補を選定し、その歴史的価値の分析を進めた。仙台市教育委員会および宮城県教育委員会と連携し、文化庁調査官の実地調査を 11 月 27 日に受け入れるとともに、登録申請のための資料作成を進め、1月に仙台市教育委員会を通じて 8 件の建造物の登録のための意見具申を行った。

2）基金・校友事業室と協力してオンライン校友祭に際し、史料館では大学史に関する特別講演、オンラインキャンパスツアーを企画実施し、校友アイデンティティの創出に積極的に寄与した。また本学の教職員、学生のエンカレッジと登録有形文化財の魅力発信の施策として、ZOOM 等で活用可能な、東北大学バーチャル背景集を開設した。さらに工学部と連携し国立大学では 2 例目となる登録有形文化財（美術・工芸）の登録を実現し、官立高等教育機関営繕組織近代建築図面（東北帝国大学営繕課旧蔵）の登録交付式を挙行した。

3）植物園では、コロナ禍による閉園期間中においても、春から秋にかけて、ホームページで開花中の植物の写真を 6 回更新し、情報発信を行った。また、十分な感染症対策を施した体制で、11 月に部分開園を実施した。

4）史料館では、2020 年度に登録有形文化財である本部棟3魯迅ラウンジのスペースに新たな展示空間をデザインし、同じく登録有形文化財に登録されている、魯迅の階段教室と一体的な観覧性を高めることで、学内歴史的建造物のアウトリーチ体制を強化した。

---

4. 公文書管理による大学運営への貢献

No.79 ①-1 多様な教育研究活動等を支える情報基盤の活用充実と高度化
No.80 ①-2 学術情報拠点としての図書館機能の活用
実績報告
1）本部事務機構の協力の下、現用・非現用のライフサイクルに基づく適切な公文書管理と評価選別・移管を実施し、歴史公文書の保全に努めた結果、本年度は国際標準 6%を越える移管率 8.8%を達成した。東北大学の理念の 1 つである「門戸開放」を象徴する、女子学生誕生の 8 月 21 日を記念する、女子大生の日登録を、男女共同参画推進センターと連携して進めた。また「Women's Student Record in Higher Education in Japan」が、UNESCO の「20 documentary heritage」に選出された。

2）史料館では、第 21 代総長期の 12 名の執行部に関するデータベース化を進めると共に、本年度に任期を終えた副学長について事績ヒアリングを実施した。また東北大学の理念の形成過程について、総長級に関する以下の事業を実施した。愛媛県総合科学博物館で開催された、第 4 代総長小川正孝の企画展示「小川正孝 アジア人初の新元素発見者」（10 月 10 日～11 月 29 日）にあたり、小川正孝のニッポニウム研究資料（化学遺産認定）を出陳し、連携した展示協力を行った。さらに西澤潤一元総長の関連資料を再整理し、西澤記念資料室の整備をおこなった。

3）史料館では学内法人文書収蔵環境を再整備し、2020 年度末までに従来の収蔵量を 1.7 倍に増床した。この結果、国の公文書管理法による国立公文書館等指定施設の収蔵規模は、全国第 6 位から 4 位に向上された。

---

5. 先端技術を活用した学術資源利用の促進

No.19 ①-1 長期的視野に立脚した基礎研究の充実
No.26 ①-1 多彩な研究力を引き出して国際競争力を高める環境・推進体制の整備
No.33 ②-4 国際共同利用・共同研究拠点及び共同利用・共同研究拠点の機能強化
実績報告
1）総合学術博物館では、東日本大震災の震災遺構の3次元デジタルアーカイブデータを WEB 配信し、オンラインで利用する方法の検討と試行を行った。高分解能X線CT設備（学内共同利用）を活用し、学内外の機関の多様な分野の研究者との共同研究を継続して実施した。

2）学際科学フロンティア研究所領域創成研究プログラム「分野横断的 デジタルアーカイブ による創造のためのミュージアム」に工学研究科都市建築学専攻と協力して研究を行い、デザイン学の観点から学内学術資源をもとにした作品展示「宛先のない作用＃0 ダイガクにねむるモノにまつわるゲイジュツ展」（10 月 1 日～10 月 12 日）を、仙台フォーラスを会場に行った。

3）工学研究科都市・建築学専攻、埋蔵文化財調査室と協力して東北大学における歴史遺産マップを作成し、成果公開に努めると共に、研究会 1 回、ポスター展示 1 回を開催した。

4）植物園本園の天然記念物指定範囲は、環境省のモニタリングサイト 1000 事業の準コアサイトとなっており、今年度も植生概況調査、陸生鳥類調査を実施した。さらに今年度は 5 年に1回の毎木調査の年にあたり、サイト内の全樹木について、胸高直径を測定し、前回調査結果との比較を行った。これらの成果の一部は、環境省モニタリングサイト 1000 の HP（http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html）で随時発信されている。近年の温暖化、都市化による気温の上昇に伴い、青葉山内では春植物の開花期が早まる傾向が認められている。過去 60 年間の記録に基づき、カタクリの開花期を解析したところ、1990 年代からの早春期の気温上昇に伴い、カタクリの開花期が早くなっていることが明確に認められた。今後、他の春植物についても解析を進め、研究成果の公表と展示室での展示を進める予定である。

5）史料館では、東北アジア研究センターとともに、地域研究デジタルアーカイブの構築に協力し、37,112 件のデータベースからなる、デジタルアーカイブを国際的な画像共有の枠組みである IIIF で公開する仕様策定をおこなった。2020 年度末に地域研究デジタルアーカイブは公開され、東北大学学内における本格的な IIIF 仕様でのデジタルアーカイブ公開の初めての事例となった。